

第9回電気絶縁材料シンポジウム

開催にあたって

絶縁材料常置専門委員会
委員長 家田正之

今度、国際的に著名な特別講演者と優れた論文発表者および多くの熱心なる参加者を迎え、第9回電気絶縁材料シンポジウムを開催するにあたり、絶縁材料常置専門委員会の前委員長・新旧幹事・委員諸氏の絶大なる御努力と電気学会内の関係各位、とくに電気材料技術委員会（委員長 成田賢仁氏）および絶縁材料耐熱性試験法（委員長 吉岡 浩氏）、絶縁材料コロナ劣化（委員長 岡本英夫氏）、絶縁材料耐電界性（委員長 能登文敏氏）の各常置専門委員会、絶縁材料放射線試験調査専門委員会（委員長 矢作吉之助氏）などの御協力と電気学会事務局の御尽力に対し厚く謝意を表する次第であります。

本シンポジウムは電気材料技術委員会主催のもと実行委員会が組織され、関連専門委員会の協力をえて昭和43年10月に第1回が開催されて以来今日まで毎年開催され過去8回の会合を重ねて参りました。第1回当時の技術委員会 鳳 誠三郎委員長は、この会合が定期的に長期にわたって実施されることを強く要望されました。この主旨は以後 中谷 宏委員長のもと第2～3回の会合に引継がれ、本シンポジウムの創設期が形成されました。第4回以降は絶縁材料常置専門委員会の誕生に伴って、これがその主催を継承し、昨年まで犬石嘉雄委員長のもとで着実にその規模と国際性を増し、わが国の電気絶縁工学分野における本シンポジウムの位置づけが定着すると共に、その果たしてきた役割は学問的にも技術的にも少なからぬものがあつたと確信します。また本シンポジウムと併行して昭和46年より絶縁材料に関する若手セミナーも企画され、本年で第6回を迎えますが、これらが次の時代を背う若手研究者・技術者の育成と能力開発に果たしている成果は次第に認識を深められつつあると思います。

本シンポジウムは創設以来、電気絶縁工学における学問的・技術的向上を目指して、広く電気・物理・化学の研究者・技術者が一堂に会し、参加者の活発な情報交換を通して、広い専門分野を包含する絶縁工学の基礎と応用との有機的結合を深めるべく努力して参りましたが、経験的手法に強く依存しがちな従来の絶縁設計技術を物性論を基礎にした新しい分子設計レベルにまで引上げる努力が一貫してその底流にあつたと思います。これは今後も引継がれるべき一つの主要な指向でありましょう。一方すでに9名にも及ぶ海外の著名な招待講演者を欧米各国より求め、広くそのトップクラスと意見交換の場を提供しえたことは、この会議の国際性を論ずるときに重要であり、わが国の絶縁技術の向上に有益であつたばかりでなく、広く海外に対しわが国の技術レベルに対する理解を高めつつあることは、この会議の一つの特徴でもありましょう。

本年も、3部門の重要特定テーマが設定され、討議課題の整理がなされると共に、講演件数は興味ある一般講演も含め、34件に達し、更に関連専門委員会から4件の貴重な技術報告が寄稿されました。また著名な外人招待講演者として、米国 WH社 Swiss博士と英国 North Wales大学 Lewis教授の両氏を迎えることが出来ました。種々困難なる世界情勢のなかで、当委員会の招待を快よく受諾して下さった両氏と種々御尽力をいただいた関

係各位に改めて厚く御礼申し上げます。

近年、電気絶縁分野の基礎・応用の両面にわたり著しい進歩と着実なる成果を挙げ、国際的にも、その活動が注目されつつあるわが国の絶縁技術の現状を更に向上し、質的にも量的にも世界のトップレベルにまでこれを引挙げるには多くの困難な解決すべき問題点が存在しております。このなかで本シンポジウムの果す役割も重要であり、創設時の原点にかえり、その理念を反省すると共に、これらは全参加者による活発な討論と、個人的交流を通しての情報交換が積極的に行われることによって、始めて達成されるものと確信しております。とくに会議開催に関しては多くの問題点が指摘されつつあり、これらは参加者全員の御意見を集約し、最も有効に機能する方向づけを探索し、将来に向けてこれらの実現と改善をはかりたいと存じております。この意味において、今回も準備しましたアンケートを通じ率直なる御批評をよせられるよう念願しております。

第9回シンポジウムに尽力された絶縁材料常置専門委員会の新旧委員氏名（昭和51年4月交替）は下記の通りであります。（敬称略、五十音順）

【新委員会】

〔委員長〕 家田 正之
〔幹事〕 日野 太郎、田中 紀捷
〔委員〕 斉藤 省吾、堤 泰行
蓬郷 章郎、中北 倫男
中野英三郎、永野 宏郎
平林 庄司、松浦 清
矢作吉之助、山田 有一
〔参加〕 阿部 伸一、一色 節也
井関 昇、犬石 嘉雄
岡本 英夫、金指 元憲
河野 照哉、堺 孝夫
武 祐一郎、内藤 克彦
西松 峯昭、能登 文敏
芳賀 薫、福田 正
藤田 英夫、森内 孝彦
森山 寛厚、吉岡 浩

〔幹事補〕 伊東 宇一

【旧委員会】

〔委員長〕 犬石 嘉雄
〔幹事〕 家田 正之、矢作吉之助
〔委員〕 井関 昇、岡本 英夫
加子 泰彦、金指 元憲
川井 栄一、河野 照哉
斉藤 省吾、堺 孝夫
内藤 克彦、能登 文敏
原 仁吾、日野 太郎
松浦 虔士、吉岡 浩
〔参加〕 阿部 伸一、武 祐一郎
蓬郷 章郎、永野 宏郎
西松 峯昭、芳賀 薫
藤田 英夫、森内 孝彦
森山 寛厚、山本 武夫
〔幹事補〕 伊東 宇一、田中 紀捷

また、外国人講演者招待に御協力を頂いた下記の関係各社に厚く御礼申上ます。

昭和電線電纜株式会社、住友電気工業株式会社、
タツタ電線株式会社、大日本電線株式会社、
帝人株式会社、東京芝浦電気株式会社、
株式会社 巴川製紙所、日新電機株式会社、
日東電気工業株式会社、日本碍子株式会社、
株式会社 日立製作所、日立電線株式会社、
富士電機製造株式会社、藤倉電線株式会社、
古河電気工業株式会社、松下電器産業株式会社、
三菱電機株式会社、株式会社 明電舎

（五十音順）